

13	課題番号	研究課題名	研究代表者	評価結果
	1501005	最高速AFMが解き明かす生物分子モーターのナノ構造ダイナミクス	安藤 敏夫 (金沢大学・大学院自然科学研究科・教授)	A+
<p>(意見等)</p> <p>研究状況報告書にあるように、非常にシステマティックな理論的アプローチによって高速スキャナーの開発に成功している。動的PID制御の手法によって弱い力を使いつつ高速測定を可能にした点は非常にオリジナリティーが高い。</p> <p>開発した装置を使用してすでに生物物理として重要な成果を上げており、これからもさらなる改良と発展が期待できる。</p> <p>最近の新聞報道によると、この方式による生物系試料に応用するためのAFMシステムを企業が生産する準備が進んでいるとのことである。</p>				
14	課題番号	研究課題名	研究代表者	評価結果
	15101006	極微量重差分化法の開発と応用	野島 博 (大阪大学・微生物病研究所・教授)	B
<p>(意見等)</p> <p>現状のレベルの「重差分化法」を用いた応用例に関してはいくつか示されており、一応の進捗が認められたが、本研究の主目的である「極微量重差分化法」の開発の現状については、提出書類からは全く評価できなかったため、ヒアリングを行い説明を受けた。特許申請の関係という理由で、分子X、未知 primer など未公開情報に不満が残ったが、PCRを使わないT7 RNAポリメラーゼによるRNA増幅技術として、その原理が解説された。しかし、作られたライブラリーが十分にゲノムをカバーしていることの証拠など詳細が示されておらず、最終目標である1細胞への応用の可能性には疑問が残った。さらに、重差分化法という命名について、再考すべきとも思われるが、全体としては新技術確立の成功が期待される。</p>				